

[月刊] En-ichi

5

no.252

魂の教育を実践する

インタビュー

「関係性を生きる」ことで絆を育む

大阪市立大学大学院教授 畠中宗一



日本の家庭を守る教育情報誌

今月の
焦点

現在の家族問題は、例えば貧困といった従来の枠組みだけでは解けない。むしろ「関係性を生きる力」という別の視点から見たほうが理解できるということです。

親子、夫婦が向き合う家族支援を進めよう 畠中宗一…5

世界史を無神論から有神論へと転換させるキーパーソンとして誰かを選ぶとしたら、神は、…日本人を選ぶのではないだろうか？

「日本人の祈り」—自然災害に意味はあるのか 渡辺久義…9

韓国の識者の中には、今回の震災でこれほどまでに韓国人の気持ち「親日的」になったことに驚きを禁じえないという人もいる。義援金も…海外への災害支援額としては過去最大となった。

震災を契機に近づく日本と韓国…10

三世同居率が高い県ほど、小中学生の学力と体力及び出生率が高く、離婚率と犯罪率が低い…三世同居あるいは三世代の協力による「家族チーム」が…善良な社会をもたらすことを示している。

「家族力」を高める三世代家族 菅野英機…14

3 巻頭言

子どもの活躍の舞台をつくろう 八洲学園大学教授 渡邊達生

4 教育再生への課題と展望

「関係性を生きる」ことで絆を育む

親子、夫婦が向き合う家族支援を進めよう 大阪市立大学教授 畠中宗一

8 発言

「日本人の祈り」—自然災害に意味はあるのか 京都大学名誉教授 渡辺久義

10 ワールドアフェアーズ

震災を契機に近づく日本と韓国

12 情報ファイル

新学習指導要領、小学校で全面实施
見直される「家族と地域の絆」

14 家庭学

「家族力」を高める三世代家族 上武大学講師 菅野英機

16 オピニオン

子育ての時間保障する子育て支援を

18 発言

「米百俵」—学校建設に未来を懸けた長岡の人びと 哲学者 河端春雄

20 病を克服した偉人たち〈6〉ロナルド・レーガン

アルツハイマーと闘い人間の尊厳示し続ける

22 子育ては絵本で大丈夫

日本民話「ふくろうのそめものや」 劇団天童／天童芸術学校代表 浜島代志子

24 歴史と伝統の探訪

フルベッキと幕末維新の人々／長崎・東京



八洲学園大学教授
渡邊 達生

巻 頭 言



東日本大震災の災害を受けたある中学校で、卒業式が行われていた。卒業生代表の子どもが流れる涙をもともせず、声を高めて、「天をうらまず、これからを一生懸命に生きて行きます。」と、述べていた。甚大な被害を受け、心は絶望の極みに達しているに違いない。でも、それに屈しないという、子どもの涙ながらの気力に、目がしらが熱くなった。その強い志ができたのは、それまでの、日々の生活をおいてほかにはない。

思えば、学校には、多くの子どもたちが集うが、その中のひとりしてみれば、思い通りには事が運ばないことが多い。努力をしても成果が表われない、みんなのためにがんばってもいやがられる、人に誤解されて疎外感を味わう、等のこともあり得ることである。しかし、つらい日々は、人とかかわることのありがたさを知る機会ともなる。

日々行われる、掃除、係活動、当番活動、委員会活動、部活。そして、運動会、音楽祭、マラソン大会等の学校行事。そこには、同級生や、上級生・下級生とのかかわりがある。つらい気分であるとき、人と共に活動したり、何気ない言葉を交わしたりすることで、心はほぐれる。また、役割や責任を与えられるとやる気が出る。さらには、その自分を支えてくれる人がいることに喜びを感じる。そして、そのようなよい体験

子どもの活躍の舞台をつくろう

が、自分を素直にさせてくれる。いやなことがあっても人をうらむのではなく、自分にできることをすることで、事の解決をめざそうとするのである。それを得るところに、学校教育の意義がある。教育の目標は、教育基本法にいう、「教育は人格の完成を目指し……」であるのだから。

近年の学校教育への関心は、学力の充実に目が向けられている。それも大事ではあるが、子どももそのことは重々承知していることである。親や教師の目がそこばかりに行くと、子どもをつらさの中に追い込むことになる。ではなく、人と共に生きてこそ自分の道はひらかれて行くという、つらさを克服する道があることを知らせることが大事である。

学校や家庭で、自分の役割を果たしていること、人が認めてくれていいること、教師や親に信頼されていること、等を知らせることで日々の生活の価値に気づくことができよう。

時は、新学期。子どもが、自分の役立つことは何かを考える時期である。学校や家庭で、子どもの活躍の舞台をつくろう。人は、人に役立てることで、前向きになる。それができてこそ、学力も生きた力となろう。学力の真価は学ぶ力にあり、一生を通じて自分にみがきをかけていくものである。

「関係性を生きる」ことで絆を育む

親子、夫婦が向き合う 家族支援を進めよう

今回の震災で、私たちは絆の大切さを実感した。「関係性を生きる力」を取り戻し、家族と地域、国の再生につなげたい。

**社会は人と人が
助け合って生きる**

今回の震災で失われたものはい言では言い切れないほどです。ただ、その中で家族や地域社会の絆の大切さを国民全体が実感しているのではないのでしょうか。社会は、最終的には人と人が助け合って生きていくのが原型であるという確認です。

困っている人、辛い思いをしている人に声をかけるなど、自己ではなく他者に関心が向いてくると、世の中は変わっていきます。

こうしたことは頭では分かっているけれども、身体レベルではほとんど気づかない社会生活をわれ

われ日本人は送ってきたのではないのでしょうか。ただ、被災者と心を合わせて共感する感性を日本人は持っていると思います。そういう意味では私は日本人を信じています。情報をうまくつなげていくことができれば、まさに日本が一つになっていけるのではないかという希望を持っています。

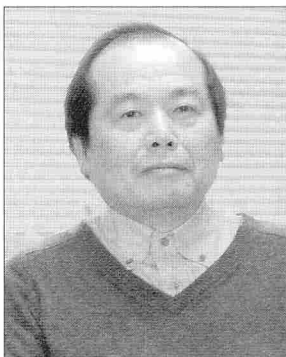
**「関係性を生きる力」
が低下している**

ところで、ここ数年の世論調査を見ると、「家族は大切」という意識が国民の間に高まってきているのは確かです。ただ、「関係性を生きる力」は低下していました。ですから、家族は大切だと意識して

も、家族関係がきちんと生きられていたかどうかは疑問です。

「関係性を生きる」というのは、他者を存在として受容し、自己の思いも伝える。これが相互性のなかで展開されることです。

しかし、言葉で言うほど現実には簡単ではありません。私は関係性



畠中宗一

はたなか・むねかず

大阪市立大学大学院教授

1951年鹿児島生まれ。鹿児島大学教育学部卒。筑波大学大学院社会科学部研究科博士課程単位取得退学。学術博士。東洋大学助教授などを経て、現職。専門は家族社会学、臨床社会学。著書に「子ども家族支援の社会学」「チャイルドマインディング」「家族支援論」他多数。



家族の中で「関係性を生きる」ことが大切

を生きることの難しくしている背景には「富裕化社会」があると考えています。

社会が豊かになると、生活が個人単位でも自己完結できるようになります。これを私は「私事化」と呼んでいます。つまり現代社会は全てにおいて「個」というキーワードが大きく影響しているわけです。「家族機能の脆弱化」と「私事化」が、現在の家族問題を生み出して

いると言えます。

例えば、富裕化社会は結局、効率性や利便性を最優先しますから、一方で人とのつながりや関係性はどんどん分解されます。他者への関心が薄れ、関心が限りなく「自己」に向いていきます。また、ライフスタイルが個々の課題中心になっていくため、家族の団らんやコミュニケーションが軽視される傾向が見られます。夫婦や親子がきちんとコミュニケーションをとることに、あまり価値が置かれなくなりそうです。

つまり、現在の家族問題は、例えば貧困といった従来の枠組みだけでは解けない。むしろ「関係性を生きる力」という別の視点から見たほうが理解できるということだと思います。

絆を育むためには 愛された経験重要

「関係性を生きる」と言いましたが、ほとんどの人は「私は関係性を生きている」と言うでしょう。私

は対人関係（IPR）トレーニングを行っているのですが、参加している一人の母親が「私は子どものことを受容しています」と言うのです。しかし自分の気持ちは全然伝えないのです。確かに受容ということとは大事です。ただ、何でも受容する母親というのは、子どもから見ると「何をやっても許される」という感覚です。それは甘やかしです。

家族や地域社会の絆が大切であることはいうまでもありませんが、この絆の形成には、多様な情緒関係を体験していることが前提です。子どもの家出などの問題行動も、子ども自身の中に親子の情緒関係が肯定的に内面化されていると、一時的にドロップアウトすることがあっても、最終的には家族に戻ってきます。糸の切れた風にならないのです。この家族に戻ってくる力が、まさに情緒関係であり、絆です。これを育むためには、愛された経験や甘えを受容された経験が重要です。

戦後日本の家庭教育では、「甘や

家族の関係性を生きることができれば、地域社会における関係も再生できる

かし」と「甘えを受容する」「自立を促すための甘え」を混同してきたところがあります。自立のために甘えを受容することは大事です。愛情を注ぐ、甘えを受容するということは、子育てにおける基本的な機能です。

存在として子どもをきちんと受け止めて、「でもお母さんは納得しないよ」という気持ちを出すと、納得していなくても自分をきちんと受け止めてくれているという感覚、それでも愛されているという感覚が子どもの中に生まれ、それが自立を促していきます。

大切なことは、夫婦であっても親子であっても、相手を存在としてきちんと受け止めるということです。そして、こちらの思いもきちんと伝えることができる。それが相互性の中でできるということなのです。ただ「子どものことをちゃんと受け止めています」「親としてのメッセージを出しています」というのは一方通行であって、関係性を生きているとは言えません。

家族の再生は、家族の主体性の

回復でもあります。主体的な家族を営むためには、愛情を注ぐこと、甘えを受容することが重要です。絆というのは、まさに関係性の結果です。関係性を生きることが積み重ねた人が絆や情緒を育てている。ですから、絆の復権のためには、他者への誠実な関心が必要です。どこまでも「自分」にしか関心がないという人には関係性を生きる力は育ちません。

「家族・地域時間」生かすという

そして、夫婦や親子といった家族関係において関係性を生きることができれば、地域社会における関係にも期待が持てると思います。

家族の再生が地域の再生、国の再生につながる。媒介としての家族が、家族としての機能を発揮できない状況であれば、社会に対する愛が育つはずがありません。

そのためには、社会システムのあり方を、仕事中心主義から、仕事と私生活の役割を峻別するよう

なことを政策的に推進することが重要だと思えます。例えば、私生活には仕事を持ち込まず、親密性を楽しむこと。これによって充電し、仕事の活性化に繋げる。こうした循環を作り上げていくことも、家族の役割ではないかと思えます。

政策的レベルで「家族時間」や「地域時間」を生かすというように働きかけによって、より大きな効果が見えてくると思います。家族との団らんを大事にしましょうという一言が大切ではないでしょうか。

家族政策については、子育て支援であれば、就労支援ではなく親子がきちんと向き合えるような環境を整えることが何より重要と考えています。

英国の家庭的な保育制度に学ぶ

以前も紹介しましたが、英国にはチャイルドマインダーという家庭的な保育制度（女性が就労のために子どもを他人に預けるコミュニ

家族支援は親子や夫婦が きちんと向き合う環境を 整えることが第一

ニティサービスが始まり)があり、全体の七割を占めています。英国社会では歴史的に、家庭内で虐待や何らかの不祥事が起こった時に部分的に国家が介入して、箱ものではなく、チャイルドマインダーの資質を整えていくというやり方を政策的にとつてきました。

親の自己実現を保障すること、安定した親子関係を保障すること、この二つの理念を同時に充足できるシステム。私はそれがチャイルドマインダーだと思っています。つまり家庭的保育です。それに対して日本は集団的保育が九割以上です。財政的にはそれでいいかもしれませんが、それで本当に人が育つのかということです。愛情を注ぐ、甘えを受容するという人間の育ち。あるいは情緒、絆を育てる時に大事なことが、集団保育でできるのかと問い直す必要がある。今の子育て支援というのは親の自己実現を支援するという意味の就労支援に偏っていると思います。

子育ての最終責任者は親であり



家族です。保育所の側では様々な行事などに親を巻き込みながら、一緒に子育てをしているという枠組を作りながら、親子を向き合わせる努力をしていく必要があると思います。そうしたことがまさに絆の基礎になっていくと思います。

無関心社会から 関心社会へ

もちろん、家族機能が低下していることに対しては、一定の家族支援が必要です。ただ、それは親子や夫婦がきちんと向き合うような環境を整えるという意味の支援

を第一に考えるべきです。物やサービスが第一ではありません。

今の政策は単に家族が困っているから社会化しなければならぬと動いています。もともと、家族の機能不全、機能の低下を補完する形で「社会化」が生まれたのですが、そこに乗れば乗るほど、ますます家族の距離感が増幅されてしまう。そこをきちんとサポートしていく必要があると考えます。家族をエンパワーメントすることで、家族の分断化を阻止するということができますね。

関係性を生きることができるようになれば、夫婦関係、親子関係が変わっていくし、世の中の人の関係も変わっていきます。

震災は悲しい出来事ではありませんが、これをきっかけに「他者」に関心と想像力を持つていくというメッセージを出していくと、社会、国が変わってくるのではないかと思います。それがまさに無関心社会から関心社会に転換していく、その方向性を示すことになると思います。■

「日本人の祈り」

「自然災害に意味はあるのか」

「手を合わせて祈る日本人の姿に深い感銘を受けた」。米国のメディアは日本人の宗教性をこう伝えた。我々日本人は大震災の意味をどう考えればいいのか。

フランクル『夜と霧』

自然災害に意味はあるのだろうか。「意味などない、ただ物理的原因があるだけだ」というのが科学の公式見解だ。しかし我々人間はそう考えるようにはできていない。ヴィクトル・フランクルというユダヤ人がそれを教える。自分の遭遇した不幸の意味を最も徹底的に問い詰める能力のあるのは、科学においても際立って優秀なユダヤ人かもしれない。

「人間は苦悩に対して、彼がこの苦悩に満ちた運命とともにこの世でただひとり、一回だけ立っている

という意識にまで達せねばならぬ

のである。何人も彼から苦悩を取り去ることはできないのである。何人も彼の代わりに苦悩を苦しめぬくことはできないのである。」

これは精神科医ヴィクトル・フランクルの『夜と霧』の一節だが、彼はナチスの収容所において、人類史上まれに見るこの巨悪が、ほかならぬこの自分を通じて発現されることとして、何か深い意味があるに違いないと、いわば自分自身を人体実験に用いるかのようにこれを考え抜いたのである。我々はここに、神と直接向き合うという意味で最も深い宗教性と、徹底した科学者魂の一致を見ないで

あろうか？

この本が『歎異抄』と同じように、長い間わが国で隠れたベストセラーであった事実は、日本人にもこのような素質があることを証明している。この度の東日本大震災に際して、外国の報道の注目を引いた、日本人の秩序や礼儀、感謝、忍耐、奉仕の精神と、この災害後ほとんど時をおかず見えてきた旺盛な復興への意欲は、これを物語る。

人間の生命力

アメリカのFOXニュース(3・18)は、十年前の9・11を思い出

し、あの時アメリカ人は教会の門を大きく開けて信仰に慰めを求め人々を受け入れたが、宗教を持たないと自称する人々が多数を占める日本ではどうするのか見ていたと言う。すると日本人は、教会やモスクのようなものは持たないが、一人びとりが手を合わせて死者の冥福や行方不明者の安泰を祈っ

渡辺久義

わたなべ・ひさよし
京都大学名誉教授

1934年岐阜県生まれ。京都大学文学部卒。同大学院修士課程修了。同大学教養学部総合人間学部教授、摂南大学教授を務める。著書に『ヘンリー・ジェイムズの言語』『イエイツ』『意識の再編』『善く生きる』『ダーウィニズム150年の偽装』他。



ている、その姿を見て日本の宗教的伝統に深い感銘を受けたと言っている。

フランクは、次々に死んでいく極限状況に置かれた周囲の仲間たちを、科学者らしく観察しながら、外に向かって発散する威勢のいいタイプの人間より、一見ひ弱そうな内省型の人間の方に生き延びる生命力があったという意味のことを言っている。これは人間の生命力がどこからくるのか、打ちひしがれた人間や国民が立ち上がるための強靱さはどこからくるのか、という問題を考える上で非常に大きな示唆を与える。

人間は意味を考える動物である。旧約聖書『ヨブ記』のヨブは、神とサタンとの人間の魂の奪い合いにおいて、神がヨブに与える徹底的な試練に打ち克って、神への信仰を失わず、当初以上に栄えるようになる。ヨブとは、人間そのもののことと解釈できる。宇宙の歴史において最後に創られた人間が「天罰」によって、その存在を全面的に否定され滅ぼされるとは考え

られない。

これは宗教を信ずるか否かに関係なく、宇宙は最初から人間や人間のための環境を頭に置いて創られたとする、現代の有神論科学の導く結論だと考えられる。現在、科学者の世界は、有神論的パラダイムと無神論的パラダイムの対峙の形に明瞭に色分けされているが、歴史に意味などなく物理的に動いているだけだとする無神論科学陣営は、無辜の人々の命を奪った今回の大災害を、神の不在の確実な証



「日本において多くの人々が危機に対処するために祈っている」=被災した町を前に手を合わせる人たちの写真を掲載した米FOXニュース

明だと言うであろう。しかし現代の日本人を『ヨブ記』のヨブの立場に立たせてみることによって、現代の日本人が特に選ばれて試練を与えられたものと、正反対の解釈をすることができると。日本人がそれに耐える能力をもっているのは確かであろう。

歴史の転換期に

しかしこれは矛盾するようだが、もし日本人が人類を代表するヨブとして選ばれたと解釈することができたら、日本人はやはり自稱通りの無神論者代表として選ばれたと解釈することもできる。なぜなら現代特有の無意識の「科学的」無神論者として、

日本人ほど典型的な存在はないと思われる。この無意識の科学的無神論は「構造的傲慢」という形を取る。これは個人的性格としての傲慢でなく、一人びとりの気づかない集団的傲慢である。これは言ってみれば、深い宗教性をもつ日本人が、一方では無神論科学陣営の代表者の立場に立っているということである。これは日本人の人格が「謙虚」である(であろう)こととは関係がない。もし神が試練の対象として、つまり世界史を無神論から有神論へと転換させるキーパーソンとして誰かを選ぶとしたら、神は、無神論を国是とする中国人でもなく、国定信仰をもつイスラム教徒でもなく、日本人を選ぶのではないだろうか？

私はこのような分析と仮説を人に押し付けようとは思わない。しかし歴史の転換期と言われるこの時期に、特に我々日本人にこのような試練が与えられることが、単なる偶然とは思えず、またそのように考えるべきではないと思う。

論者として、

迅速だった支援 最大額の募金

「ご家族や親戚の方々はご無事でしたか？」

「東京にも放射能の被害があるのでしょうか？」

先日、韓国を訪問した会社社員のKさん(64)は、行く先々で韓国人から見舞いの言葉を掛けられた。初対面の人たちからも心配してもらい、Kさんは韓国人たちの温かい気持ちに感動したという。

韓国の識者の中には、今回の震災でこれほどまでに韓国人の気持ち「親日的」になったことに驚きを禁じえないという人もいる。元月刊朝鮮編集長でジャーナリストの趙甲済氏は「韓国人の間に日本を心配し、応援しようという動きがここまで広がるとは思っていなかった。テレビで津波が押し寄せ、る場面などを観て、ショックが大きかったと思う」と述べた。

震災後、韓国の日本支援の動きは早かった。震災三日後、韓国は

首都圏の消防隊員と医師百二人から成る緊急救助隊を空軍輸送機で日本に派遣し、被災地での救助活動に加わった。毛布や飲料水など日本政府から要請があった物資の空輸をはじめ、福島第一原発の核

分裂反応を抑えるために必要なホウ酸や火力発電所の燃料となる液化天然ガス、ガソリンなどの「戦略物資」(韓国メディア)も官民挙げて支援した。

義援金も大韓赤十字社や各マス

ワールド・アフェアーズ

震災を契機に 近づく日本と韓国

未曾有の被害をもたらした東日本大震災で、隣国・韓国の日本に対する認識に変化が生じている。日本を心配し、激励する声が数多く上がっているほか、黙々と復興への道を歩み始めた日本人への評価も高い。「近くて遠い」日韓の距離が少しずつ狭まっているのは確かだ。

韓国在住ジャーナリスト・一藤木充誠

コミなどが窓口となったり、有志の大学生などが街頭で直接募金活動をしたりして、先月二十七日現在で赤十字社に集まった規模は、海外への災害支援額としては過去最大となる二百十三億ウォン(約十六億円)に達した。

ペ・ヨンジュンさんやリュ・シウォンさんをはじめ日本人のファンが多い韓流スターやサッカー元韓国代表の朴智星選手などスポーツ選手らによる寄付も相次ぎ、こうした救援活動の広がりは日本人をして「日本人たちは韓国を見直すだろう」(武藤正敏・駐韓大使)と言わしめてもいる。

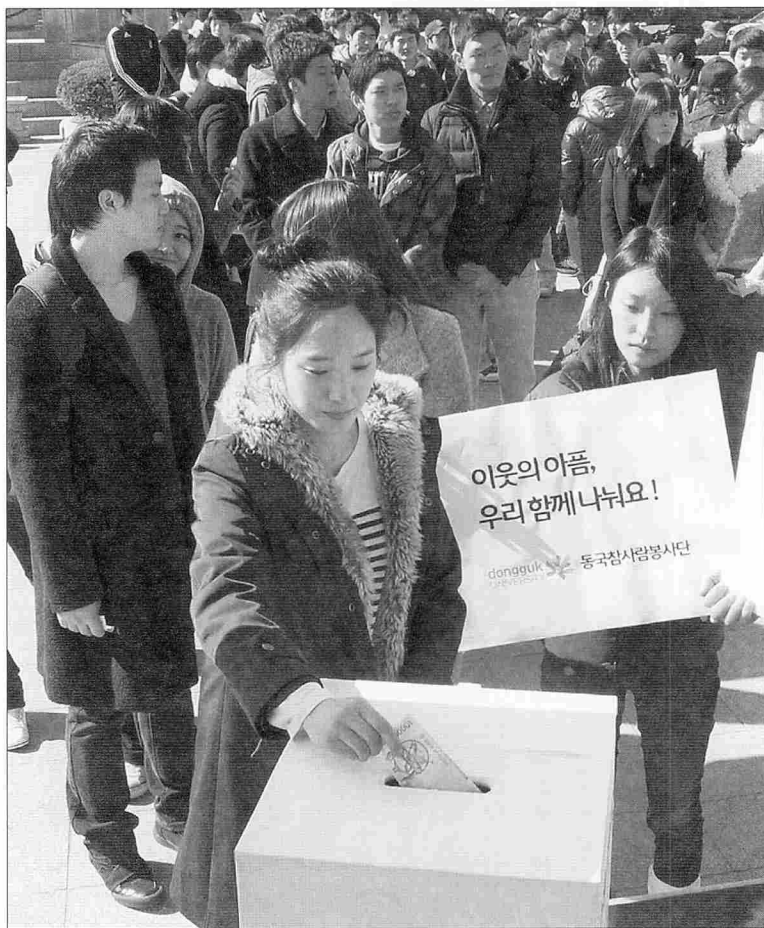
秩序正しい日本人に 「学ぶべき」

一部の反日感情も和らいでいる。毎週水曜日、ソウルの日本大使館前で旧日本軍による従軍慰安婦問題で被害を受けたと主張する高齢女性たちが、日本政府に謝罪と補償を求めて開いているデモ集会は、震災直後だけは追悼集会に性格が

変わり、ある参加者は「日本の皆さん頑張つて」と何度も叫んだ。歴史認識や竹島領有権などの懸案で反日運動を繰り返している市民団体も日本の再起を祈る声明を出したり、義援金を送る方針を発表した。

一方、韓国では震災に見舞われながらも秩序正しい日本人の姿が高く評価されている。最大手紙・朝鮮日報は現地特派員からの記事で、「避難所で配られた毛布を二つに裂いて使う人たち、食水とガソリンを買うために配給所の前で不平一つ言わず並ぶ人たち、先に並んだといって欲張らず、後の人たちのために自分が食べる分だけのラーメンとおにぎりを買う人たち……どこに行ってもこうした光景を見ることができると紹介し、揺るぎ無い日本の市民意識と称えた。

また東亜日報も社説で「最悪の災害に遭っても冷静さを失わず、忍耐を發揮する日本人の姿に感嘆する。(中略)日本人たちの危機対応を見ながら私たちが学ぶべき点



東日本大震災で被害を受けた日本人を支援するために、募金をする韓国・ソウルの大学生たち(3月16日) EPA 時事

は一つや二つではない」と日本を評価している。

遠ざかることは できない関係に

もちろん韓国人の日本に対する

複雑な思いが全て消え去ったわけではない。韓国中部、忠清南道論山市に在住する辛承仁さん(73)は「村の人たち同士の会話では『昔、韓国を支配したことへの罰が当たったのさ』と話している」と述べた。

本音が飛び交うインターネット上

では「日本は罪深いけれど、頑張つてください」という書き込みも見られた。

それでも今回の震災を契機に日韓の距離が近づいているのは間違いない。先月三十日に発表された日本の中学校の地理、公民の教科書の記述で竹島領有権を主張していることに韓国が反発するなど、懸案は依然として残されたままだが、年々拡大し続ける民間交流や李明博政権による未来志向の日韓関係重視などを背景に、日韓は近づくことはあっても遠ざかることはできない関係だ。

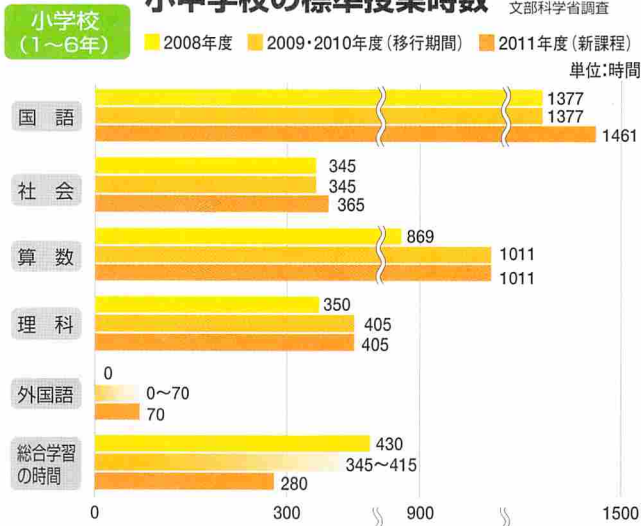
核やミサイルで周辺諸国を脅かす北朝鮮や共産党一党独裁の中国の存在など北東アジア安保の不安要因を考えた場合も、民主主義と市場経済という共通の価値観を持つ日韓の協力は、今後ますます重要度を増すものとみられる。■

小中学校の授業時数

新学習指導要領、小学校で全面実施
中学校は来年度から、授業時数も教科書も大幅増

小中学校の標準授業時数

文部科学省調査



新年度から小学校で新学習指導

要領が全面実施となった。二〇〇

二年度改訂時より一年〜六年の総

時間数は二百七十八時間(五千三

百六十七〜五千六百四十五時数)増

えた。

一年〜六年の国語の総時間数は

八十四時間、社会は二十時間増加。

算数と理科は前倒しでそれぞれ百

四十二時間、五十五時間増加した。

また総合的な学習時間が週三時間

から二時間に削減された分、五・六

年生では週一時間、年三十五時間

の外国語活動が正規授業となった。

小学校の外国語活動は「聞いて

分かる」こと

が目標。現行

の中学英語と

の間には大き

なギャップが

あり、連結を

どうするかが

課題だ。また

英語を教えた

経験がない小

学校教師が担

当するため、

英語の教師養

成は急務だ。

○二年度の中学校は二

完全実施に向けて、文部科学省が

使用される教科書の検定結果を公

表した。現行の教科書と比べると、

全教科の平均ページ数が二五%増

えた。理科は四五%、数学は三三

%の大幅増加。理科は水圧(一年)、

進化や気象(二年)、フックの法則

(三年)、数学では球の表面積・体

積(二年)、二次方程式の解の公式

(三年)が復活した。

教える内容の大幅増加に合わせ

て、授業時数も増える。一年から

三年の全教科の総時間数は現行の

二千九百四十時間から三千四十五

時間に。数学と理科は前倒しです

で実施、全学年あわせて数学は

七十時間、理科は九十五時間増加

した。また外国語も二〇一二年度

から現行より百五時間増えること

になる。

学習指導要領の改訂はこれまで

何度か行われ、改訂の度に授業時

数や内容が削減されてきた。今回、

授業時数や内容が大幅に増加した

が、学校五日制は残したまま。学

習内容の増加に授業時数が追いついていない。

「日本人の国民性」調査

見直される「家族と地域の絆」
「家族が大切」「人のためになりたい」増加

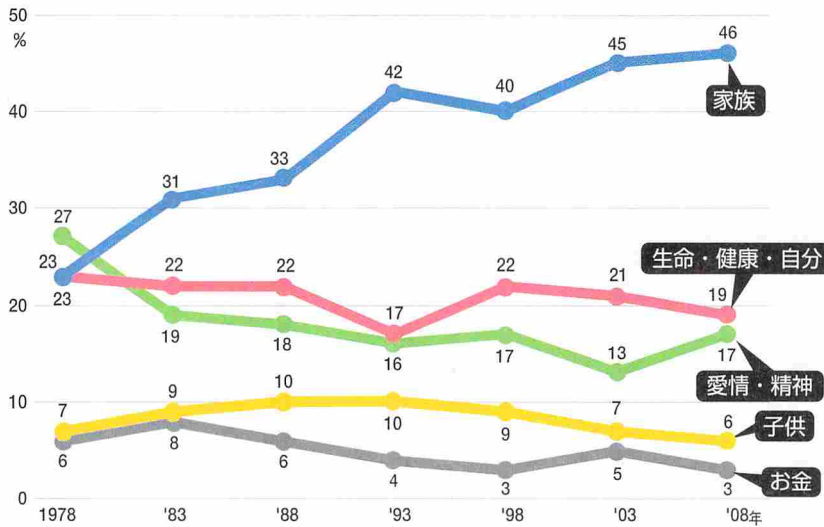
「無縁社会」に象徴されるように、家族や地域の絆が弱くなっていると言われる。一方で、今回の東日本大震災は、多くの国民にその絆の大切さを改めて考えさせることになった。

世論調査などを見ると、国民の中では家族を大切に思う意識は高くなっている。

例えば、統計数理研究所が五年ごとに実施している「日本人の国民性調査」によると、「家族が一番大切」という回答が九〇年代以降増え続けており、最新の二〇〇八年調査では過去最高の四六%。「子供が大切」という回答

「一番大切だと思うもの」20歳以上の男女約3300人が自由回答

統計数理研究所「日本人の国民性調査」



を含めると五割を超えている。年齢別でも「家族」という回答は、二十代では四四%、三十代で五二%に達している。

また、国立社会保障・人口問題研究所「全国家庭動向調査」（二〇〇八年）では、「子供が三歳くらいまでは母親は仕事を持たず育児に専念」という回答が増加。二十代の妻では五年前の前回調査から一〇ポイント以上増えて八一・七%、三十代でも七八・四%が賛成するなど、若い世代にも家庭志向が高

くなっている。

ただ、日本は他国に比べて、地域社会の関わりが薄くなっているとの指摘もある。OECD（経済協力開発機構）の調査では、友人、同僚、スポーツや文化グループとの付き合いが日本は最も少ないという。

その一方、前述の「日本人の国民性調査」で、「自分の好きなことかどうかはともかく、人のためになることをしたい」の割合が二十代、三十代とも前回より八ポイント増えて（二十代四三%、三十代五二%）、過去最高だった。

また同調査では、若い世代に「先祖を尊ぶ」割合が増えていることも分かった。二十代が四八%、三十代が五六%と、いずれも前回より約二〇ポイント増えている。

これらの結果から同研究所は、日本人が精神的な充足や心の拠り所を模索していると分析。他人への無関心が蔓延する中、多くの国民が絆を見つめ直すそうとしている時と言えそうだ。

「家族力」を高める 三世代家族

三世代の「家族力」が、子供の学力や体力を育て、出生率を高め、離婚率や犯罪率を抑えている。家族力は善良な社会の礎石だ。

学力と体力育て 出生率を高める

三世代同居の「家族チーム」が学力と体力の高い子供を育て、出生率を高め、離婚率を下げ、犯罪率を下げる顕著な傾向を持っている。家族の持っているこれらの力を「家族力」と呼ぶ。家族力は明らかに三世代同居によって高められることが、三世代同居率が高い県ほど、小中学生の学力と体力及び出生率が高く、離婚率と犯罪率が低い傾向を示していることから分かる。このことは「家族力」が善良な社会の礎石であることを示しており、家族力を高めるには、三

世代同居あるいは三世代の協力による「家族チーム」が大変有効であり、善良な社会をもたらすことを示している。

学力と体力が共にトップである福井及び秋田とそれらが共に最下位近辺にある大阪と北海道を比較することで、三世代同居が「家族力」を高め、家族力が学力と体力の高い子供を育て、出生率を高め、離婚率と犯罪率を引き下げる傾向が明らかになる。

学力と体力共に全国のトップであった福井は、三世代同居率や三世代の協力関係や共働き率や「お手伝い」をする子供が多く、住みやすさランキングでも一位であり、学力体力共に、「家庭の生活習慣や

地域との関わり方が最も大切である」ことを示している。

三世代同居率は、一位が山形で二四・九％、二位が福井で二〇・二％、三位が秋田で一九・三％である。最も低いのは、東京で三・一％、四十六位は鹿児島で三・七％、四十五位が大阪で四・五％、四十三位が北海道で四・九％となっている。東京を除いて学力・体力、離婚率、犯罪率、出生率、と近い傾向を示している。

離婚率が最も高いのは、沖縄の千人当たり二・七一件、二位が大阪で二・四三件、三位が北海道の二・四二件である。離婚率の最も低いのは、新潟の一・四九件、島根の一・五二件である。離婚率が

婚姻率と比較して高い地域こそ本当に離婚率が高い地域であるという観点から、離婚率を婚姻率で割った相対離婚率と言うべき値を見ると、福井が〇・三一九で、秋田が〇・三七九であるのに対して、大阪は〇・四〇五で、北海道は〇・四五一と、福井と秋田が大阪と北海道に比較して低いことが分かる。

合計特殊出生率は、一位が沖縄で一・七四、二位が宮崎で一・五五、福井は一・五〇で六位、秋田は一・三四で三十位、大阪は一・二

菅野英機

すがの・ひでき
上武大学講師・
日本民俗経済学会理事長

1942年生まれ。国学院大学大学院経済学研究科博士課程修了。天理大学、秋田経済法科大学、新潟産業大学などを経て、上武大学教授。専門は理論経済学。日本民俗経済学会理事長。著書に『民俗経済学への招待』他。



二で四十三位、北海道は一・一八で四十六位である。合計特殊出生率についても、秋田が中位であるのを除いて、福井が高く、大阪と北海道が低い。

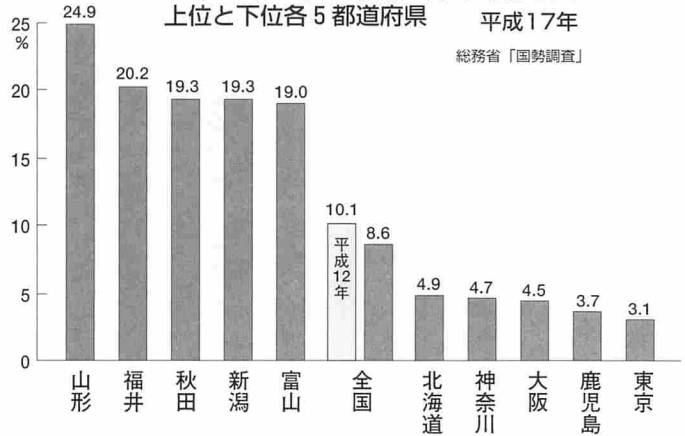
犯罪率を見ると、最も低いのが秋田で、十万人当たりの犯罪件数が千八百件であり、福井が千六百七十七件で低く、大阪が三千四百八件で最も高く、北海道は千六百六十件で他の指標と異なり低い。

「家族力」を強める 課税方式

「家族力」の高い県ほど学力と体力共に高く、だいたいにおいて離婚率が低く、出生率が高く、犯罪率も低いという事実は、「家族力」を高めることが、善良な社会を構築する為の礎石であることを示している。秋田と北海道を比較すると、失業率が高く出稼率が高く所得が低く冬の寒さが厳しいのは両地域に共通であるが、両地域は「家族力」では対照的であり、失業率や出稼率や所得の高低や気候より

3世代世帯の都道府県別割合 上位と下位各5都道府県

平成17年
総務省「国勢調査」



も「家族力」が重要であることを示しており、もう一つの重要な要素は教職員組合の体質の違いに見られる。

「家族力」を強める政策の一つとして、出生率を増加させる課税方式が有効である。その課税方式は、スウェーデンで現在行われており、合計特殊出生率が約一・五から約一・九に増加させることに成功し

ている政策であり、三世代の拡大家族の所得を合計した家計所得を拡大家族の人数で割った一人当たり家計所得に累進課税を課すという課税方式は、

日本の伝統に大変親和性の高い政策であって日本ではスウェーデン以上には効果の期待できる政策である。出生率を高め、高齢者の孤立を防ぐ高い効果があるだけでなく、「家族力」を高め、離婚率や犯罪率を低下させ、学力と体力も高め、善良な社会をもたらしうことが期待できる確かな方法である。

この方式は、税を支払うのも補助金を受け取るのも家族単位であり、現在行われている政策の多くが個人単位であり、むしろ国民を個人単位にバラバラにしてしまう方向性を有する政策が多いのとは異なり核家族を一つの家族に結び付ける優れた政策である。

勿論、三世代が助け合う方法は、

同居以外にも、それぞれの実情にあった様々な方法があり得る。

三世代の力を活かす 優れた習慣

例えば、公共住宅などで、子供家族が住んでいる隣や下の階などに優先的に入居を許可するなどの政策や、先ほどの離れて暮らす子供家族と高齢者家族の間で様々な協力関係を結んだ家族を同一の家族と認定し、低い所得税率が適用される政策によって、高齢者家族と子供家族の間で頻繁な行き来をすることを支える政策などがある。

我が家が行っている、離れて暮らしている親子や兄弟の家族が週に一度あるいは月に一度は共に会い食事を一緒にするなどのちょっとした習慣も大変有効である。子供家族の子育てを親が手伝いに行き、子供家族が孫を連れて祖父祖母の家に時々行くなどは古来から多く行われているが、家族の機能を有効に活用する優れた習慣である。目

育児の外注化に拍車を掛ける待機児童解消策

子育ての時間保障する 子育て支援を

政府の待機児童解消策では少子化対策にならないばかりか、子供に犠牲を強いることになる。親子の絆を結ぶ子育ての時間を保障する支援に転換すべきだ。

編集部

スを提供する計画という。

ビジョンの中心は 母親の就労促進

新年度、深刻化する待機児童を解消するために、政府と自治体が一体となって保育所整備拡充に力を入れていく。政府の待機児童ゼロ特命チームがとりまとめた待機児童解消作戦では、待機児童の増加にあわせて保育所を増やすという「後追い」発想ではなく、潜在的保育ニーズを考慮した「先取り」発想で取り組むという。六年後には潜在的保育ニーズに対応し、三歳未満児の四四％に保育所サービ

スを提供する計画という。

「子どもが主人公(チルドレンファースト)」「社会全体で子育てを考え、子どもを大切に」を掲げる「子ども・子育てビジョン」(二〇一〇年一月二十九日閣議決定)だが、その中身は子育て中の母親の就労促進であり、さらなる育児の外注化だ。菅総理は、「保育分野で働く人が増えることで、雇用を創出」「M字型カーブの解消で、女性の労働参加を高められる」とし、その結果「少子化傾向に歯止めがかけられる」と述べている。

育児の外注化の流れは保育所利用児童数の推移をみるとよく分か

る。子供数の減少にともない減り

続けていた保育所利用数が、エンゼルプランが打ち出された一九九四年を底に、突然増加に転じる。以後少子化の進行にともなう保育所利用数が増えるという特異な形を辿り、二〇一〇年四月一日現在、過去最高の二百八万人に達した。この間、保育所増産がさらなる待機児童を生み、結果的に子育ての外注化に拍車をかけた。

とところで、なぜ待機児童はなくなるらないのか。これには経済のクラクリがある。エコノミストの鈴木直人は「高コストの認可保育園であるにも関わらず、利用者負担

額が二割程度と低すぎるからだ」と分析する(「財政危機と社会保障」)。利用者からいえば、預けた方が経済的な負担が少なくてすむ。それが過大な需要を生んでいると指摘する。○歳児一人に三十万円超のコストが掛かると言われている。保育サービスの利用者の多くは、利用者負担額の十数倍もの公費を供給されているという認識はない。鈴木氏は待機児童を解消するには、規制緩和で保育料を自由化する以外にないという。

出生率回復には つながらない

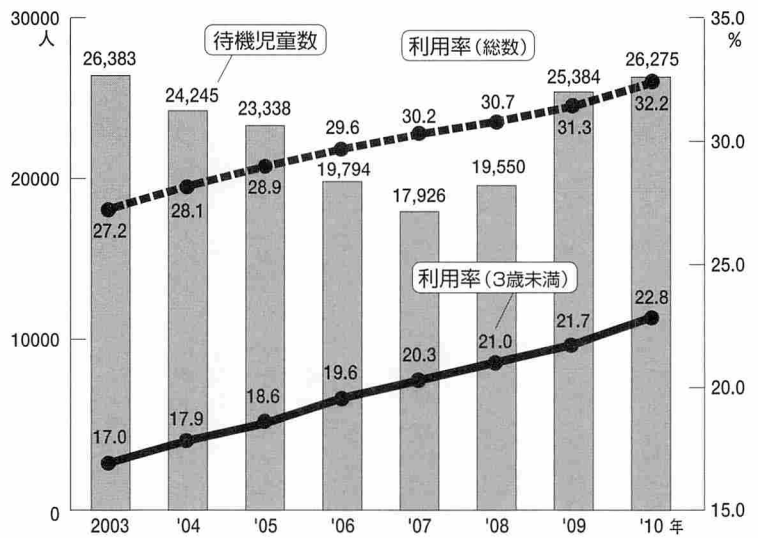
しかし、安易な自由化は保育の質を落とす危険がある。また保育所を増やし、保育サービスを充実させたとしても、子育てに伴う喜びにつながるとはいえない。現実には仕事と子育ての二重のストレスに苦しむ母親が多い。結局、出生率回復につながらず、子供一人ひとりの個性を軽視した、画一的な保育を拡大させるだけだ。

「チルドレンファースト」。本来に子供を第一に考えるならば、母親を絶対的に必要とする三歳児未満、とりわけ〇歳児保育は慎重にすべきだろう。また経済的理由で幼い子どもを預けなくてもすむよう、違う形の支援の在り方を考えるべきであろう。

「社会全体で子育てを考える」ということは、子育てを親の手から保育所という外部の手に任せることでも、働く母親の多様なニーズに対応して際限のない保育サービスを充実させることでもない。孤立しがちな子育て中の母親を地域社会が支援する、あるいは仕事中心ではなく子供中心に、短時間勤務や十分な育児休業が取れるように社会全体の働き方を見直していくことが必要だ。

国立社会保障・人口問題研究所の「全国家庭動向調査」によれば、多くの母親の本音は、「子どもが三歳くらいまでは、母親は仕事を持たずに育児に専念したい」（八五・九％）という。最近では若い世代を中心に家庭回帰の兆しが見られる。

保育所待機児童数及び保育所利用率の推移



厚生労働省「保育所関連状況取りまとめ」

残念ながら行政はこの大多数の声に応えようとしていない。

日本が学ぶべき 少子化対策

海外の子育て支援に詳しい池本美香氏は、『失われる子育ての時間』のなかで、親同士が協力して自分

たちの子供を育てる、ニュージランドのプレイセクターという、子育て支援を紹介している。「親に子供の世話をする時間を与える」として、子育てをする権利を保障しているという。と同時に、保育所を利用しても、保育所を利用しないで家庭で育てても、給付の公平性が保たれているのが、日本と大

きく違うという。さらに親自身が親として成長していけるような支援のあり方は、日本が学ぶべき少子化対策と述べている。

「子ども手当て」「高校無償化」、そして「保育所拡充」に共通するのは、子育ての主体を家庭から、社会あるいは国家に任せようという「子育ての社会化」だ。

共働きが一般化し、さまざまな育児サービスが拡充するなか、親と子がともに過ごす時間はますます削られている。重要なのは親と子がしっかりとした絆を結ぶことができるよう、子育ての時間を保障するという視点だ。と同時に子育ての主体である家庭がその役割を自覚し、子育て責任を果たすことができるよう、行政が親教育にもっと力を注ぐべきだろう。

待機児童解消という、急場しのぎの対策で犠牲になるのは、意思行使できない幼い子供たちだ。育児の外注化に歯止めをかけ、子育てを親の手に取り戻す。これが家庭機能を回復させ、安定した強固な社会をつくることにつながる。■

「米百俵」——学校建設に未来を懸けた長岡の人びと

「これが藩を立て直す唯一の道だ」。窮状の中、将来のために「米百俵」で学校を建設し教育の礎を築いた新潟・長岡。学校からはその後、多くの人材が育った。

藩政をあずかった 小林虎三郎

新潟県(越後)には、明治の初めから「米百俵」を合言葉として奮起する精神が持続しているようだ。

戊辰戦争に、越後長岡藩の家老河井継之助は藩の中立を強く主張した、ある種の平和論者だった。だが、新政府軍にいられず、長岡城に籠城するが負傷して、落城後に死亡した。

この戦いに、長岡藩は新政府軍に抗して敗北し、長岡の市街は荒廃し、ほとんど焦土と化した。あの記録によれば、城下にあった土

族の戸数千七百七軒、このうち焼

失したものの千十四軒(五九・四%)、

また町家の焼失千四百九十七軒、近

郊農家の焼失千八十二軒という惨

憫たるものだった(『長岡市史』)。

だが長岡の人びとは、この流離顛沛から立ち上がった。明治・大

正・昭和を通じて、戦前の長岡で

は、河井継之助を非難すれば商売

が成り立たないとまでいわれた。戊

辰戦争で、経済的にも悲境に立つ

た長岡の町民が、その戦争を指導

した河井継之助を、こうまで敬慕

するのは、すなわち理想的精神の

賜物だろう。

明治三年の四月の末か、五月の初めごろ、戊辰戦争で焦土と化し

た城下町・長岡藩に、その窮状を

見かねた支藩三根山藩から見舞い

の米百俵が届けられた。

敗戦によって、長岡藩の禄高は七

万四千石が二万四千石、三分の一に

減封され、事実、藩士の家族などは

三度の粥すら満足にすれないとい

う悲惨な状態に陥っていた。

そのとき、藩政をあずかる大参

事は小林虎三郎だった。ちなみに、

虎三郎は二十三歳の時、江戸に遊

学して佐久間象山に入門した。そ

の同門の長州藩士吉田松陰と並び

称せられて、象山門下の「二虎」に

こ)と呼ばれるほどだった。松陰

は通称を寅次郎と言い、また小林は虎三郎であることから「二虎」と

呼ばれた。象山自身も、「虎三郎の学識、寅次郎の胆略というものは、当今、得がたい材である。ただし、事を天下になすものは吉田子なるべく、わが子の教育を頼むべきものは小林子だけである」と、日ごろ、よく語っていたということだ。

「長岡を立て直す 唯一の道だ」

先に述べたように、支藩三根山

河端春雄

かわばた・はるお
哲学者

1926年北海道生まれ。哲学専攻。文学博士。『実存哲学』『ニーチェの光と影』『技術の思想』『大学の使命』など著訳書、論文多数。他に看護教育について『看護教育方法学』などがある。



藩から届いた米百俵の救援米に、空腹を抱え、飢餓に瀕していた藩士たちの誰もが生き返ったように喜び合い、寄ると触ると、そのうわさで持ち切りだった。

ところが、藩の大参事である小林虎三郎は、飢えに苦しむ藩士たちに、その救援米の一粒も分配しなかった。そして、この百俵の米を資金として、新しく学校を建てると主張した。

いきり立つ反対藩士たちに刀に手をかけて詰め寄られるなど、あらゆる反対を押しつけて、「食われなければこそ、教育するのだ」と喝破した。「もとより、食うことは大事なことだ。食わなければ人間、生きてはいけない。けれども、自分の食うことばかりを考えるな。そんなことでは、長岡の町はいつになっても復興しない。お身たちが、本当に食えるようにはならないのだ。だからわたしは、この百俵の米をもとにして、学校を建てるのだ。これで人物を養成するのだ。子どもを仕立て上げるのだ。まどろっこしいようではある

が、これが一番確かな道だ。これが戦後の長岡を立て直す、唯一の道だ。これをほかにして、長岡を生き返らせる道はないのだ。その日暮らしでは、長岡は立ちあがれない。あたらしい日本は生まれな

いのだ」
「われわれが、この苦しみを引き受けなかったならば、つぎの時代の人たちは、また同じ苦しみをしなければならぬ。こんな苦しみは、われわれ一代だけで十分ではないか。こんな苦しみを、まご子にさせるようなことがあっては、われわれの恥辱だ。今、われわれはつらくても、あすの長岡を考えろ。あすの日本を考えろ」と。

悲惨なときほど 教育に力を注ぐ

小林虎三郎は、あらゆる反対、妨害を押しつけて、「米百俵」を新しい国漢学校の新築費に充てたのだ。明治三年六月のことである。つまり、「米百俵」の精神とは、年少者には将来がある、何よりも年少者

の教育を優先しなければならぬ。こういう悲惨なときであればあるほど教育に力を注がねばならぬ、という考えだ。

この小林虎三郎の抱負、見識というものは、国漢学校の設立によって具現化された。戊辰戦争後、廃墟の長岡から輩出した人物には、有名な山本五十六をはじめ、斎藤博（駐米大使）、小原直（内務相）、渡辺幾治郎（歴史家）、小山正太郎（洋画家）、小金井良精（東大医科大学長）、小野塚喜平次（東大総長）、外山且正（御歌所寄人）、大橋佐平（博文館社主）、橋本圭三郎（日石社長）などがある。

去年の秋、私は新潟を訪れる機会があった。その際、地震被害の最もひどかった市立白山高等学校の校庭に立つ「苦難をのり越えて」の碑に、深い感動を禁じ得なかった。越後の教育者たちが「米百俵」を合言葉として復興に尽くした、その精神をしのびながら、真の教育精神は、いかにして培われるべきかを深く考えさせられた。■

本書は、多くの人々の目を覚まさせるに違いない！
しかし本書は、ある種の人々を間違いなく不快にさせるだろう…

ダーウィニズム150年の偽装

——唯物論文化の崩壊と進行する I D 科学革命

なぜ唯物論という「いびつな哲学」が社会を支配してきたのか。ここに、鮮やかな謎解きの旅が始まる。

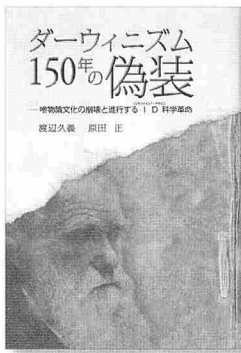
ご注文は書店へ お急ぎの方は下記までご連絡ください

渡辺久義／原田 正 著

A 5 版／324ページ／ハード
カバー上製本／2500円＋税

アートヴィレッジ <http://art-v.jp>

受注センター：〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18
TEL.078-882-9305 FAX.078-801-0006



ロナルド・レーガン (1911 ~ 2004)

アルツハイマーと闘い人間の尊厳示し続けた大統領

冷戦終結に導いた英雄

冷戦終結に導いた大統領は、その後アルツハイマーに侵されながら、人間の尊厳と勇気を示した。

ジャーナリスト 池永達夫

冷戦を終結に導いた歴史的指導者であるレーガン元米大統領の生誕百年を祝う式典が二月六日、カリフォルニア州のレーガン記念図書館で行われた。米各紙は生誕百年の特集記事を掲載、テレビ局も式典を生中継し、国民的人気の高さを改めて示した。

レーガン最大の功績は、ソ連を「悪の帝国」と名指しで非難し、ソ連と真つ向から対峙する道を選んだことだ。ソ連の兵器開発の時間を稼ぎだけに活用されたデタントを否定し、「力による平和」による共和党本流の外交戦略を採択した。具体的には、国防予算を大幅に増額、スターウォーズ計画の一方

的推進に動くことでソ連をけん制。アフガニスタン侵攻で台所事情が苦しいソ連の国家財政から、国防予算の肥大化で行き詰まさせるというシナリオを描いた。

果たしてそのシナリオ通り、一九八〇年代中頃にはソ連の財政は危機的状況に陥った。結局、一九八五年のゴルバチョフ書記長就任で、米国は安全保障や対東欧政策などでソ連から大幅な譲歩を引き出すことに成功した。

こうした冷戦終結への端緒を掴んだレーガンは、それまでの対ソ強硬路線を修正、ゴルバチョフに對し改革を評価し、さらなる改革を促した。政治家レーガンの面目躍如たるところは、強硬路線一辺倒ではなくソ連の譲歩を引き出した後、民主化への道筋をつけるための柔軟路線に転じるところだ。こうして動き始めた改革の流れは、坂道を転がるように加速しその勢いを増していった。そして、一九八九年十一月にはドイツでベルリンの壁が崩壊、チェコスロバキアではビロード革命が成功し、共

産党一党独裁体制は崩壊した。さらに東欧諸国はドミノ倒しのようになり、次々と民主化が果たされていった。そしてついに二年後の一九九一年にソビエト連邦が解体され、冷戦終結を迎えた。

レーガンがそれまで通りデタント戦略を維持する融和政策を選択していれば、歴史は違っていたかもしれない。その意味でもレーガンは、歴代大統領の中でも突出した英雄だった。

夫妻で病の進行と闘う

そのレーガンも、大統領職を辞して四年後の一九九二年、アルツハイマー病と診断された。アルツハイマー病では、大脳皮質などの萎縮が起こる。レーガンは痴呆という終着駅に向かって走り出した列車に乗りこんでしまったのだ。

最初にみられるのが記憶障害だ。とくに新しいことがおぼえられず、家族や友人に同じことを何度もたずねるようになる。そして置き忘れやしまい忘れが目立つようになる。

病を克服した偉人たち



1989年1月11日、ホワイトハウスから国民に向け、お別れ演説を行うレーガン米大統領（アメリカ・ワシントン）AFP=時事

なる。

そして時間や場所の感覚が不確かになり、自分の居る場所もわからず、出かけると帰宅できなくなったりもする。アルツハイマー病では、こうした症状が自然の老化よりずっと早く進行していく。

病は年を追うごとにレーガンの脳を侵していった。ナンシー夫人は自宅にホワイトハウスの大統領執務室オーバルルームを再現し、レーガンはそこで新聞を読んだり、「補佐官」となったナンシー夫人と会話を交わす「執務」を毎日欠かさないことで、症状の進行を遅

が出てきた。そして、一九九四年十一月五日、レーガンは国民あての手紙という形で、アルツハイマー病の病状を公表した。

「人生の黄昏への旅路に出かけます」

この事実は、衝撃的なニュースとして全世界を駆け巡った。何より本人も家族も隠したがる痴呆症を、あえて公表したことに人々は驚きを隠さなかった。有名無名をとわず、痴呆症を公表するようなことは、それまでなく前代未聞の

ことだった。

この時発せられたレーガンの最後の言葉となった「私は今、私の人生の黄昏への旅路に出かけます」というメッセージは、米国民ならず世界の人々に深い感銘を与えた。ロシアに自由の息を吹き込んだレーガンは、自分の頭脳が侵され生命の火が消え入る最後まで、人間としての尊厳と勇気を示し続けたともいえる。

二〇〇二年になると、ナンシー夫人さえ分からなくなるほど症状は進み、二〇〇四年六月五日午後一時九分、ロサンゼルス近郊の自宅で妻や子供たちに見守られながらベッドの上で静かに息を引き取った。遺体は当日の日没時、カリフォルニア州シミアバレーのロナルド・レーガン大統領図書館の敷地内にある墓所に安置された。

そのレーガン図書館で行われた生誕百年祝賀式典で、八十九歳のナンシー夫人は空を見上げながら「（レーガンは）皆さんと百回目の誕生日を祝えて興奮している」と語った。E

子育ては*絵本で*大丈夫

*9



浜島代志子
劇団天童/
天童芸術学校代表

もっと欲しいもっと欲しい！足るを知らないから、真っ黒になりました。その訳はななんだ？
日本民話「ふくろうのそめものや」



「ふくろうのそめものや」
鈴木出版刊

このような話を由来話といいますが、どうしてこうなったのか、物事には全て原因があるから結果があります。こどもの頃から由来話をたくさん聞いて育つと、知らず知らずのうちに「このような原因があったからこうなったのだ、良い原因は良い結果をもたらす」という思考回路ができあがり、普遍的な真理を知るのです。

次に子ども達はどうのように考えるかという、「原因を知ろう、そして、良い結果をもたらそう」と思うのです。こども達はどんどん

鳥たちが好きな色に染めてもらいにやってきて、満足して帰ってゆきました。主人公のからす、真っ白できれいな身体が自慢でした。鏡片手にうっとりしている絵がとてもいい。白は純粹、神様を表すと
言われています。

ところが、このからす、他の鳥に負けちゃあならんと思って、「誰よりもきれいに染めてくれ。桃色、いや、青がいい、黄色、赤だ」とわがまま放題。この時のからす、目つきが悪い。

ふくろうはどうしたと思います

賢くなります。すばらしいことじゃありませんか！昔話の教育力は偉大です。

◇ ◇ ◇

さて、物語と絵を見ましよう。

ふくろうの染め物屋は大繁盛。森中の

か。そこら中の色を全部、ぶちまけた。堪忍袋の緒が切れたふくろう、怒ってます。からすは真っ黒けになった。「元の真っ白にもどしてくれ」怒りまくったがどうにもならん。後の祭り。覆水盆に返らず。自業自得。

あゝあ、せっかく天から戴いた白を台無しにしてしまったおぼかなからす。

◇ ◇ ◇

「まっくらネリノ」は生まれつきの黒(全てを包み込む色)、からの生まれつきは白でした。天から与えられた個性を生かしたのが真っ黒ネリノ、潰したのがからす。

大人にこそ深い絵本が必要だと思いませんか。目

※「絵本は日本を救う」という絵本プロジェクトを立ち上げました。読んでくださいね。

■表紙写真

ふきのとうが芽を出す
(福島県で)

撮影・大塚克己

性犯罪者のGPS監視に賛成

熊本市で三歳の女兒が殺害されて遺棄されるという許しがたい犯罪が起きました。この事件では、大學生が死体遺棄で逮捕されました。鹿児島県内では、小学校から帰宅途中の女兒がトイレに連れ込まれてみだらな行為をされる事件があり、二十三歳の男が逮捕されました。

幼い子供への性犯罪は、最も卑劣な犯罪です。最近、それが増える傾向にあり、憂慮される状況です。たとえば、児童ポルノの被害者数は昨年、六百十八人に達しました。前年より二百十三人増えて、過去最高です。被害者の心身の傷を思うと、激しい怒りを覚えます。進入学シーズ

ンを迎え、多くの保護者はわが子が犯罪の被害に遭わないか、不安を抱いていることでしょう。

性犯罪は再犯が多いのが特徴です。性犯罪の前歴のある強姦罪の出所者の再犯率が四割近くに達するデータがあります。このため、宮城県のように、前歴者に全地球測位システム(GPS)を着装させることを含めた性犯罪の再犯防止策を検討する自治体が出てきました。

私たちは、前歴者へのGPS着装をはじめとした再犯防止策の導入は急務だと考えます。子供を性犯罪から守るのは国の責任ですから、一部の自治体だけでなく、全国的に導入

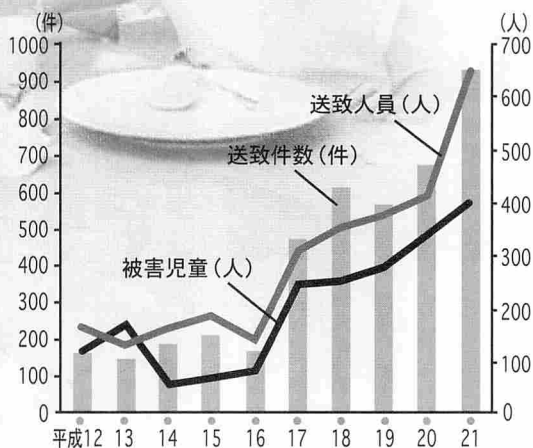
することを検討すべきでしょう。性犯罪に厳しい姿勢をとることは、世界的な傾向です。米、フランス、韓国など前歴者にGPSを着装させる国は少なくありません。子供への性犯罪の場合、薬物治療を行う国もあります。

犯罪者の人権についても、配慮すべきだという声があります。しかし、優先させるべきは、被害者を増やさないための再犯防止策です。再犯させない方策を採ることは、前歴者のためにもなることです。また、地域社会による監視の目を強める一方、幼児性愛者の忌まわしい欲望を刺激する児童ポルノの撲滅にも力を入れる必要がありますでしょう。



児童ポルノ事犯の送致・被害児童保護状況

(警察庁調べ)



家庭は愛の学校

眞の家庭運動推進協議会

The Association for the Promotion of True Families

〒160-0002 東京都新宿区新宿5-13-2 成約ビル4F
 電話03(6454)7760 FAX03(6454)7761 <http://www.aptf.jp>

毎月第3日曜日は「家庭の日」
 11月第3日曜日は「家族の日」

「家庭の日」は、社団法人「青少年育成国民会議」が進めてきた「家庭の日」運動に発し、今ではほとんどの自治体が、第3日曜日を「家庭の日」に定めています。2011年政府は十月の第「三」日曜日を「家族の日」、その前後二週間は「家庭の週間」として定めました。この日を機会に、家族の強い絆を確認できれば、それは家族みんなの素敵なプレゼントになるでしょう。

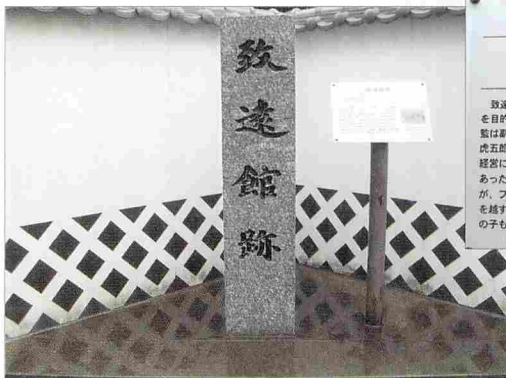
●皆様の御意見や気づいたことをご寄せ下さい。教育問題に関して、皆様の身の回りの様々な出来事や御意見などを眞の家庭運動推進協議会本部までお寄せ下さい。お寄せいただいたものを参考にしながら、皆様と共によりよい教育環境や家庭づくりに取り組んでいきたいと考えています。



第3種郵便物認可
2011年5月10日発行
毎月10日発行・通巻252号

フルベッキと幕末維新の人々／長崎・東京

歴史と
伝統の
探訪



致遠館跡

Site of the former English school "Chionkan"
致遠館英語学校遺跡

치온칸 (致遠館: 에도시대 말기에 개설된 영어교육기관) 옛터

致遠館は慶応元年(1865)、佐賀藩によって英語教育を目的に開設され、校長にはフルベッキが招かれ、学監は副島重臣が、教師は大隈重信、小出千之助、石丸虎五郎、馬場八郎などが勤め、とくに大隈重信はその経営にもあたった。校舎は2間に3間の倉造の建物であった。開校時に集まった学生は30人程だったというが、フルベッキの書簡によれば、開校の学生は100人を越すほどで、そのなかには横井小菊の甥や岩倉具視の子ども在籍したという。維新後、廃校となった。



フルベッキと生徒たち
高橋武忠先生提供

(左上より時計回りに) フルベッキが校長を務めた「致遠館」の跡地の碑と案内板(長崎)、フルベッキ夫妻の墓(東京・青山)、「フルベッキ写真」をめぐっては議論が続いてきた。写真についての研究を記した『日本の夜明け』(山口貴生著、文芸社)



日本の夜明け
山口貴生
フルベッキの晩年と
幕末維新の卒業者たち
文芸社



フルベッキ (Guido Herman Fridolin Verbeck 一八三〇～一八九八) は、幕末から明治にかけて教育や法律分野など多方面に活躍、貢献した人物だ。

オランダ生まれのフルベッキは、二十二歳で渡米。その後、キリスト教宣教師として一八五九年に来日する。当時はキリスト教が禁止されており、長崎奉行所管轄の洋学所(済美館)、佐賀藩の致遠館で英語などを教えた。博学で謙虚な人柄は人々に敬愛されていたという。

明治政府ができると、致遠館で共に歩んだ大隈重信や副島種臣らに請われて上京。開成学校、大学南校(後の東京大学)の教頭、また政府の太政官顧問として教育や法律制度の創設などに貢献した。大隈や副島、江藤新平、岩倉具視ら幕末から維新に活躍した人物の多

くが、フルベッキの教えを受けたり、思想に大きな影響を受けた。日本の大学教育の基礎が築かれたとも言われる。

いわゆる「フルベッキ写真」(西郷隆盛や坂本龍馬、大隈、岩倉具視、勝海舟、江藤新平ら四十名以上が長崎に集まりフルベッキ親子と撮ったとの説がある写真)はその真偽をめぐって議論になってきたが、それもフルベッキの影響の大きさを示しているとも言える。

一八七一年、フルベッキの提案で岩倉使節団が欧米視察に出発。約二年の視察の後、明治政府は国づくりのモデルとして立憲君主制のドイツを選ぶ。ただフルベッキ自身は、民主主義のアメリカを選ぶことを望んでいたという。多くの功績を称えられたフルベッキは、夫妻で東京・青山霊園に眠っている。

2011
5
no.252

En-ichi

●発行所
NCU-NEWS
(東西南北統一運動国民連合)
代表 河部利夫

〒160-0022
東京都新宿区新宿5-13-2
成約ビル2F
TEL.03(5362)0631
FAX.03(3354)5017
E-mail news@en-ichi.org
URL http://www.en-ichi.org

●発行人 渡辺久義
京都大学名誉教授

定価 400円
[1年間5000円(送料込み)]
郵便振替番号
00160-3-667291

●本誌に対するご意見、ご感想をお寄せください。
●定期購読のお申し込みは、電話またはEメールでどうぞ。